

14 あさぎり薬草合同会社（熊本県あさぎり町）

産地の概要



品目

栽培面積

栽培戸数

取組体制

【協力機関】

特徴

ミシマサイコ、サンショウ、ボクソク、粳米（コウベイ）

計97ha（ミシマサイコ89.7ha、サンショウ4.5ha、粳米 3 ha）

149戸（令和 6 年 5 月時点）

くま薬草生産組合（生産・調製・出荷、試験栽培の実施）
あさぎり町（関係機関との調整）
熊本県県南広域本部球磨地域振興局（生産技術の検討・実証、栽培技術指導）

製薬メーカー

・販売契約や実需者との調整を同社が担うことで生産者は栽培に注力
・栽培に必要な機械を同社が貸し出し、生産者の経営的負担を軽減

取組の背景



平成19年にあさぎり町が企業誘致プロジェクトを展開。平成20年に製薬メーカーと連携し、ミシマサイコの試験栽培を開始した。平成27年に製薬メーカーとの契約等を担う「あさぎり薬草合同会社」を法人化、平成29年には乾燥調製施設を整備し、産地化に向けた環境整備を行った。

▲乾燥調製施設の様子

品目選定理由

実需者である製薬メーカーからの依頼により栽培品目をミシマサイコに選定し、平成20年に 5 戸・0.5ha から試験栽培を開始した。翌年には、マルチを用いた試験栽培によって除草作業の省力化に成功したことで、マルチ栽培技術が確立され、栽培面積や農家戸数も増加し、地域に定着した。

課題

- ・低い発芽率や病害虫の多発生などにより生産が不安定であるため、安定生産技術の確立が必要
- ・除草作業や根の収穫調製作業など、機械化できない作業が多いため、多くの労力が必要

主な取組内容



☆同社及びくま薬草生産組合が核となり、栽培管理の高位平準化及び省力化をはじめとした生産体制の整備に取り組んでいる

①栽培管理

- ・マルチの導入による除草作業を軽減した栽培の導入（平成21年～）
- ・生産者、振興局、製薬メーカーが連携し栽培マニュアルを作成（平成26年～）
- ・新規栽培者を対象にした栽培講習会の開催（7回）
- ・大豆用収穫機を改良した種子刈取機を導入（令和 5 年）

②加工・調製

- ・地元小学校の跡地にて洗浄・調製設備を整備し、洗浄作業を効率化（平成29年）

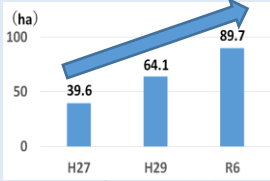
③集出荷

- ・自動包装機械を導入し、検品後の出荷作業を効率化（令和元年）

④新規品目の導入推進

- ・新たにサンショウの導入を推進。栽培技術の普及を図るとともに台木を供給（令和 5 年）

▲改良した種子刈取機



Year	Cultivation Area (ha)
H27	39.6
H29	64.1
R6	89.7

▲栽培面積の推移

成果

【取組による定量的な成果】

ミシマサイコ栽培面積拡大 H27：39.6ha → R6：89.7ha

今後の展開

- ・各種作業の機械化及び、調製施設の増設による省力化の推進
- ・新規品目のサンショウにおける栽培面積拡大の推進